

高瀬舟縁起

森鷗外

青空文庫

京都の高瀬川は、たかせがわ五条から南は天正十五年に、二条から五条
 までは慶長十七年に、すみのくらしりょうい角倉了以が掘ったものだそうである。
 そこを通う舟はひきこね曳舟である。元來たかせは舟の名で、その舟の
 通う川を高瀬川と言うのだから、同名の川は諸国にある。しかし
 舟は曳舟には限らぬので、『わみょうしやう和名鈔』にはしやくめい釈名の「艇ていし
ようにしてふかきものをきやうという小而深者曰」きやうとあるの字をたかせに当ててある。
ちくはくえんぶんし竹柏園文庫の『和漢船用集』を借覧するに、「おもて高く、と
 も、よこともにて、低く平らなるものなり」と言つてある。そし
 て図にはさお篙でや行る舟がかいてある。

徳川時代には京都の罪人が遠島を言い渡されると、高瀬舟で大

阪へ回されたそうである。それを護送してゆく京都町奉行まちぶぎようぶぎ付の同どうしん心が悲しい話ばかり聞かせられる。あるときこの舟に載せられた兄弟殺しの科とがを犯した男が、少しも悲しがついていなかった。その子細を尋ねると、これまで食しよくを得ることに困っていたのに、遠島を言い渡された時、銅銭二百文もんをもらったが、銭ぜにを使わずに持つているのは始めだと答えた。また人殺しの科はどうして犯したかと問えば、兄弟は西陣に雇われて、空引きそらびということをしていたが、給料が少なくて暮らしが立ちかねた、そのうち同胞が自殺をはかったが、死に切れなかった、そこで同胞が所詮しよせん助からぬから殺してくれと頼むので殺してやったと言った。

この話は『翁おきな草くさ』に出ている。池辺義象いけべよしさんの校訂した

活字本で一ペエジ余に書いてある。私はこれを読んで、その中に二つの大きい問題が含まれていると思つた。一つは財産というものの観念である。錢ぜにを待つたことのない人の錢を持つた喜びは、錢の多少には関せない。人の欲には限りがないから、錢を持つてみると、いくらあればよいという限界は見いだされないのである。二百文を財産もんとして喜んだのがおもしろい。今一つは死にかかつていて死なれずに苦しんでいる人を、死なせてやるという事である。人を死なせてやれば、すなわち殺すということになる。どんな場合にも人を殺してはならない。『翁草』にも、教えない民だから、悪意がないのに人殺しになつたというような、批評のことばがあつたように記憶する。しかしこれはそう容易しやくしじよに杓子

定^{うぎ}木で決してしまわれる問題ではない。ここに病人があつて死に瀕^{ひん}して苦しんでいる。それを救う手段は全くない。そばからその苦しむのを見ている人はどう思うであろうか。たとい教えのある人でも、どうせ死ななくてはならぬものなら、あの苦しみを長くさせておかずに、早く死なせてやりたいという情^{じょう}は必ず起こる。ここに麻酔薬を与えてよいか悪いかという疑いが生ずるのである。その薬は致死量でないにしても、薬を与えれば、多少死期を早くするかもしれない。それゆえやらずにおいて苦しませていなくてはならない。従来の道徳は苦しませておけと命じている。しかし医学社会には、これを非とする論がある。すなわち死に瀕^{ひん}して苦しむものがあつたら、らくに死なせて、その苦を救つてやるがい

いというのである。これをユウタナジイという。らくに死なせる
という意味である。高瀬舟の罪人は、ちようどそれと同じ場合に
いたように思われる。私にはそれがひどくおもしろい。

こう思つて私は「高瀬舟」という話を書いた。『中央公論』で
公にしたのがそれである。

青空文庫情報

底本：「山椒大夫・高瀬舟」岩波文庫

1938（昭和13）年7月1日第1刷発行

1967（昭和42）年6月16日第34刷改版発行

1998（平成10）年4月6日第77刷発行

初出：「心の花 第二十卷第一号」

1916（大正5）年1月1日発行

入力：kompass

校正：土屋隆

2006年3月8日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

高瀬舟縁起

森鷗外

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>